

# 人権問題、前面に

## 法務省は管理強化の方向

外国人登録の際に義務づけられている指紋押なつて「人権侵害」として拒否した京大の金明勲講師(三三)が都精華大の金明勲講師(三三)が今月五日、京都府警に逮捕(七日に処分保留で釈放)された。現在、全国に三十二人の指紋押なつ拒否者がいるが、逮捕は前例がなく、在日外国人に与えた衝撃は大きい。十四日、東京で開かれた全

外国人登録法に指紋制度が導入されたのは二十七年。戦後の混乱期で不法入国者が多く、証明書の写真を張り替えて使うのを防ぐためと説明されたが、反対もあり、スタートしたのは三十年から。同法では、十六歳以上で一年以上日本に在留する外国人は居留地の市町村に登録、五年に一回の更新時に、原則として左手人さし指の指紋を押さねばならない。これに違反すると「一年以下の懲役、もしくは禁固、または二十万円以下の罰金」という厳しい規定だ。

現在、八十万二千五百人(五十七年末)の登録者がいるが、その八割を超す六十七万人が韓国、朝鮮人。日本の外国人登録制度は充足の経緯からして、韓国、朝鮮人の不法入国のチェック、管理に力点が置かれてきたのが特徴だ。押なつ拒否者に在日韓国、朝鮮人が多いのもこうした背景と無関係ではない。今度、逮捕された金講師は「何人も他人の指を汚す権利はない。法務省が指紋制度に固執する

去る六月、中ソ両社会主義大國は、それぞれ新しい政治体制を形成しおわつた。中ソ接近という国際政治の新しい潮流が大きく動きはじめているだけに、中ソ両國の政治の方向が大いに注目される

表大会常務委員長、趙紫陽・國務院総理、軍は、党和国家の軍事委員会の主席に鄧小平が就くという中国の新しい政治体制が先月の第六期全国人民代表大会第一次會議で発足したのである。

### 中国の新政治体制

これにたいして、中国の場合は一見したところ、やや複雑に権力が分散しているかのようである。毛沢東、華国鋒時代の権力集中の弊害に苦しんできた今日の中国の指導者の考え方が反映されているといえよう。つまり、党は胡耀邦・総書記、政は李先念・國家主席、彭真・全国人民代

表大会常務委員長、趙紫陽・國務院総理、軍は、党和国家の軍事委員会の主席に鄧小平が就くという中国の新しい政治体制が先月の第六期全国人民代表大会第一次會議で発足したのである。

## 鄧=胡主の官僚独裁

### 公安機構作りソ連と近似

あつた。しかし、右のような政治体制を集団指導制とか五頭体制による権力の分散だと見ることは、大きな無理がある。そもそも、現行の新憲法に基づいて國家主席は、かつての劉少奇時代の國家主席とは異なつて、軍の統帥権も、政治の最高リーダーシップももたない形式的な元首にしかすぎず、このようなポストには、穩健派の長老、李先念氏ももつともふさわしい人材な

中嶋 嶺雄

ることができよう。こうして見ると、今回の全人代で実務の中核を担った陳丕顯(大会秘書長)、楊尚昆(全人代常務委員、楊尚昆(全人代常務委員)らが旧実権派のなかで名づつての中堅であること、胡耀邦、万里、習仲勲、胡啓立らいずれも旧実権派の指導の官僚独裁体制を基盤として、そのことが歴然とする。しかも、そのような鄧小平の新しい機関を必要としたこと、(三)、国内のみならず、海外での治安・公安工作が必要になりつつあることなどを指摘することができよう。いずれにせよ、鄧小平の胡耀邦体制は、いまや中国版KGBを擁するようになったのであり、この点で、ソ連の政治体質にきわめて近似しつつあるといえよう。中国はこうして、内政・外交の両面がかなりこれらで覆蔽しい政策をとりはじめの途にはなかつたか。(東京外語大教授)

阪地方本部民生部長(西)も「ビアノ教師志望の娘の指に黒いインクが塗られ、心いやし難い傷が残ると思う」と、絶対に押させたくない」と顔を曇らせる。わが国は五十四年に國際人權規約を批准しており、指紋制度は「何人も非人道的もしくは品位を傷つけられる取り扱いを受けない」という人権条項に触れる、という意見が学者の間でも多い。これに対し、法務省の亀井靖嘉登録課長は「不法入国者がいるという現実の中で、外国人の同一人性を認めるには指紋がベスト」と同制度を維持していく構えだ。法務省が指紋制度に固執する

同省は昨年十月、外国人登録法を改正、更新期間を三年から五年に延長するなど手続の簡素化をする半面、更新時には省略されていた指紋原紙への押なつて復活。法務省自らが指紋の確認ができるようにした。来年一月からは、登録記録を電算機に入力、テスト運用する予定で、外国人の管理に本格的に乗り出した印象が強い。

民団などは「在日韓国人、朝鮮人の日本への同化が進み、二世、三世が育っている中で、法務省の外国人政策の力点が不法入国者のチェック、排除から同化政策の中で管理に移り始めた」と警戒している。